スキャナやスマホでレセコン入力

ＮｅｏＸ「薬師丸賢太」

処方箋の入力作業を支援するソフトウェア「薬師丸賢太」は、業務効率化を実現できる利便性、入力ミスの防止や利用開始時のハードルの低さなどが支持され導入店舗数を伸ばしている。2022年１月の正式リリースから、今年７月には1900店舗で導入された。

ＮｅｏＸ（ネオックス）が展開する薬師丸賢太は文字情報をデジタル化するＯＣＲ技術を活用している。スキャナやスマートフォンで読み取った処方箋の画像から、ＡＩが情報をデータ化してレセコンへ連携する。従来はスタッフが手作業で対応していた手間を省略できるようになり、入力ミス軽減や作業の効率化を実現する。

読み取りに用いるスキャナやスマートフォンの機種に指定はないため、店舗にある機材をそのまま利用できる。加えて、レセコンはＱＲコード対応であればほとんどの機種で利用できるため、レセコンの入れ替えが必要なケースはほとんどない。

このように新たな機材を購入せずに利用を開始できる手軽さに加えて、医療機関ごとに異なる処方箋のフォーマット登録が不要な点も現場で好評だ。特殊な様式や手書きの処方箋であっても、スキャンもしくはスマートフォンで撮影した画像からＡＩが判断して情報を抽出するため、導入直後から高い精度での読み取りが可能だ。処方箋が複数枚つづりの場合でも、複数の患者の処方箋であってもまとめて読み取れる。

こうした機能はスマートフォンがあれば店舗外でも利用できる。店舗環境に応じて使い分けられるよう、薬師丸賢太はＷｉｎｄｏｗｓアプリとスマートフォン版のアプリが展開されている。そのため、訪問調剤や施設調剤など店舗外からであっても、スマホアプリ版薬師丸賢太で処方箋を読み取ると、店舗内の端末で内容確認やレセコン入力ができる。スマホアプリとＷｉｎｄｏｗｓアプリの併用に追加費用はかからない。

レセコンに入力された情報に間違いがあった場合はそのままレセコン上で修正できる。薬師丸賢太は誤読と修正内容も学習するため、以前は修正が必要だったケースでも短期間で読み取れるように変化する。使い続けることで読み取り精度がさらに高くなっていくことも薬師丸賢太の特徴だ。実際に、22年と比較して今年は読み取り精度が60％改善している。

料金は読み取った処方箋枚数に応じて変動するため、薬局の規模に合わせた費用で利用できる。機材の購入や事前設定など初期導入時の負担を抑えながら、調剤の入り口である処方箋入力作業の効率化を果たす。

自宅で診察から薬の受取りまで

東邦薬品「KAITOS」

東邦薬品が提供しているオンライン診療・服薬指導システム「KAITOS（カイトス）」は、医療機関や薬局、患者をつなげ、自宅にいながらオンラインの診察から服薬指導、薬の受け取りまで行うことができるサービスだ。

オンライン服薬指導をめぐっては電話を用いた診療／服薬指導の診療報酬上の特例措置（0410対応）が７月末で終了している。「オンラインで診察を受けたため、医薬品配送を宅配にしたい」「病気の子供を連れて薬局に行くのは控えたい」などの患者ニーズの顕在化と合わせて、薬局側も働き方改革の観点から薬剤師が自宅からオンライン服薬指導を行うといったケースも増えていくことが考えられる。

同サービスは月間延べ1000万人以上が訪問し、22万件の医療機関や薬局が掲載された医療機関検索サイト「病院なび」と連携しており、医療機関の検索と予約を行うことができる。また、オンライン診療を予約する際に服薬指導を受けたい薬局も事前に選択することができるため、患者は来局することなくオンラインで診察から服薬指導、薬の受け取りまで完結できる。診察後、処方箋はデータもしくはＦＡＸでクリニックから薬局に送付され（原本は薬局に郵送）、オンライン服薬指導後に医薬品が自宅に配送される仕組みだ。

同サービスはウェブとアプリのどちらにも対応しており、位置情報や都道府県、キーワードなどで薬局を探すことができる。また、服薬指導を行う前に簡単な問診票にアレルギーの有無などの情報を患者に入力してもらうことで、薬局が必要な情報を事前に収集できるようにした。問診票は自由にカスタマイズできオリジナルの問診票も作成可能だ。

また、継続した服薬指導（服薬フォローアップ）にも活用でき、オンラインで患者の服薬状況や体調の変化などを把握することができる。

服薬指導メニューは、服薬指導以外に漢方相談や禁煙相談、育児相談、栄養相談など薬局で取り組んでいる患者支援サービスを服薬指導メニューとして複数作成できる。

さらに、子供や高齢の家族の予約も行える「家族アカウント」の登録もできるように機能の充実を図った。本人がアカウントを作成しておけば、マイページから簡単に追加でき、最大で10人まで登録が可能だ。

サポート体制も特徴の一つとなっており、患者と薬局の専用コールセンターを用意しているほか、同社の営業（ＭＳ）が導入から継続的にサポートし、患者が安心してサービスを受けられるようにしている。

データ利活用の可能性を拡げる

ユニケソフトウェアリサーチ「P-CUBEｎ」

ユニケソフトウェアリサーチ（ユニケ）の電子薬歴一体型システム「P-CUBEｎ」は、患者の薬物治療や地域住民の健康を支える重要な拠点の薬局向け業務システムとして、ＤＸ（Digital Transformation：デジタルトランスフォーメーション）の推進を支援している。オンライン資格確認や電子処方箋の普及による医療情報の活用や、対人業務を目的としたＩＣＴ化が、立地に勝る薬局の特長化につながると同社は考えている。

ユニケではオンライン資格確認、電子処方箋の対応を通じて、P-CUBEｎの特徴である電子薬歴レセコン一体型を生かした業務の提案を行っている。

P-CUBEｎでは、レセコン・電子薬歴を分け隔てなく薬剤情報などの取得や重複投与等チェックを行えることから、処方入力や服薬指導時など調剤業務のどのプロセスでも薬剤情報等を生かした業務を行えることが可能だ。さらに、従来機能との親和性を高め「重複投薬等チェックのマトリックス化で直感的な把握」「薬剤情報を電子薬歴へ一括登録」、そして「電子処方箋管理サービスに登録した疑義照会を薬歴への自動反映」などを行うことができるため、業務効率化にも寄与している。

次に、服用期間中の患者フォローアップは、P-CUBEｎに標準搭載された服薬フォローアップシステム「フォロナビ」の利用が有効だ。ＬＩＮＥを活用した迅速なメッセージの自動応答システムにより、使い勝手や利用の継続性において評価を得ている。加えて、東京理科大学との共同研究により疾患や薬剤の特性に合わせたきめ細かな指導コンテンツを標準搭載しており、機能とコンテンツを両立させることで、薬局が効率良く服薬フォローアップに取り組むことができる。また、薬剤師のスキルや経験によりバラつきがあるなどの課題がある中、ＩＣＴツールを活用することで質の高いフォローアップの「均てん化」につながると見ている。服薬フォローはただＩＣＴを活用した患者の服薬フォローアップの実現にとどまらず、かかりつけ薬剤師などの指導加算の算定やトレーシングレポートの実績など、薬剤師業務をさらに高めるための機能強化を続ける予定だ。

医療ＤＸの骨格として示されている「全国医療情報プラットフォーム」が、今までにない情報を活用した薬剤師のあり方が求められる。今後もユニケは薬局におけるデータ利活用の可能性を支援していく構えだ。

当ファイルの著作権は㈱薬事日報社またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル（印刷物含む）の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル（印刷物含む）を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。
株式会社薬事日報社　TEL:03-3862-2141　shinbun@yakuji.co.jp　http://www.yakuji.co.jp/